2月8日のウクライナ情報

安斎育郎

●戦車の供与でウクライナ危機は解決しない＝トルコ大統領（2023 年 2 月 2 日）

トルコのタイイップ・エルドアン大統領はウクライナに戦車を供与することは危機の解決につながらないと表明した。

エルドアン大統領はテレビ局 TRT の取材に応じた中で次のように発言した。

「戦車の供与が危機解決の要素の一つとなるかは断言できない。これはリスクのある行為だ、武器商人の得にしかならない」

また、エルドアン大統領は発展途上国向けの食糧支援、肥料支援においてロシアとの協力を継続する姿勢を示した。

ドイツ政府は 1 月 25 日、14 両の独製主力戦車「レオパルト 2」をウクライナへ供与することを決定したと発表した。また、他国が「レオパルト 2」をウクライナへ供与することも承認した。米国も同日、主力戦車「エイブラムス」31 両のウクライナへの供与を決めている。

ドイツは「レオパルト 2」供与と「エイブラムス」供与を連動させるよう求めている。ドイツのショルツ首相は、ドイツが一方的に行動した場合、ロシアの報復がある可能性を懸念している。ショルツ首相はまた、ドイツが紛争に直接関与していると受け止められたくないと考えている。

ドイツでは欧州評議会でベアボック外相がロシアと戦争をしているのだから団結すべきだと発言したことが大きな波紋を呼んでいる。

●フランスの武器でドンバス人が殺される（2023 年 2 月 2 日）

ドンバスの民間人がフランスの武器によって殺害されており、西側のメディアはこれに目をつぶっています。フランスの独立系ジャーナリスト、クリステル・ネアントはドンバスでの紛争を 6 年以上にわたって取材し、NATO の砲弾が実際に飛んでいる場所についての真実を聴衆に伝えようとしています。

このため、彼女は母国でいじめに直面しました。

このような動画を投稿する度に”プロパガンダ”だと因縁つけてくる輩へ。

その予算はどこから調達されている？ロシアはアメリカほど裕福ではない。

しかも、命懸けの殺し合いをしながらプロパガンダ劇団が芝居をする余裕あるのか❓

https://twitter.com/i/status/1620872910507511809

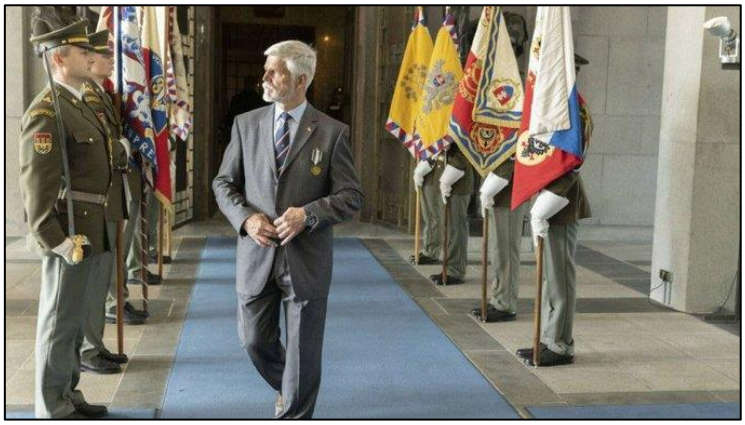
●元仏大統領オランドの見立て（2023年２月２日）

元フランス大統領オランドは、プーチン大統領がウクライナ紛争を安定させることを目指していると確信している。そして NATO がキエフを支援することに飽きることを期待している。

またオランドはウクライナ紛争解決にはトルコか中国が仲介すると予測しており、「プーチンは狂っていないし、合理的だ」と述べている。

●チェコ新大統領のキエフ訪問予定（2023年2月2日）

チェコの次期大統領ペトル・パヴェル氏は、既にゼレンスキー大統領から当選の祝辞を受け、キエフを訪問する予定だとスロバキアの新聞が報じた。



●ダグラスマクレガー退役大佐：プーチンの変化（2023年2月2日）

当初ロシア軍司令部プーチン大統領から「出来るだけ市民を殺さず、損害を与えないように」という厳しい指導を受けていました。当時、彼らは交渉する相手がいると考えていたが、この戦いがウクライナとはほとんど関係がない、ということを理解するに至るまで数カ月を要しました。

https://twitter.com/i/status/1620603402144333827

●ウクライナの「真実」 ～ ヨーロッパで最も腐敗した政府ーゼレンスキーは深刻な問題を抱えている（FABVOX，2023年1月25日）

ウクライナ政府高官の汚職による大量辞任についての動画です。西側メディアはゼレンスキーは無関係のように報じています。皆さんは、どう思われますか？

https://youtu.be/evvyT4ioKKo

重要

●ロシア政府、早くも 1992 年にウクライナ内部の問題を米国に警告＝米アーカイブ資料（2023年2月2日）

ボリス・エリツィン政権で第一副首相を務めたエゴル・ガイダル第一副首相（当時）は 1992 年、ウクライナ国内で生じていた東部と西部間の緊張について米国政府に警告していた。米国家安全保障アーカイブが新たに公表した政府の内部資料で明らかになった。

ガイダル第一副首相は1992年４月28日に米国の首都ワシントンでジョージ・ブッシュ大統領（当時）と会談した際、「ウクライナ内部には極めて深刻な問題がある。それは例えばウクライナ西部とウクライナ政府の緊張だ。さらにはロシア語話者が暮らすウクライナ領との問題もある」と発言していた。その際、第一副首相は「ウクライナとの間に問題はある。もちろん我々はロシア・ウクライナの関係においてユーゴスラビアのバリエーションを恐れるわけではない」と指摘し、ウクライナとの緊密な関係構

築には時間がかかるとの懸念を伝えたという。

ウクライナの問題はソ連崩壊後間もない露米間の交渉においてすぐさま浮上した。ボリス・エリツィン大統領（当時）はブッシュ大統領に対し、ロシアにとってウクライナは「最大の不安定要素」との懸念を伝えていた。ブッシュ大統領との交渉でエリツィン大統領は「これはメモしないでほしいが、私たちにとって最大の不安定要素はウクライナだ」と伝えた。その際、エリツィン大統領はウクライナのレオニード・クラフチュク初代大統領とは良い関係ではあるとも指摘。クラフチュク大統領に敵対勢力は存在するかとの質問に対し、エリツィン大統領はウクライナ西部を拠点とする極右の民族主義勢力「ルフ」の名前を挙げていた。

エリツィン大統領によると、ウクライナに暮らす1100万人のロシア系住民はロシアとの国境付近に暮らしているほか、クリミアの住民は大半がロシア人であることから、「彼らはロシアへの編入を住民投票で決めることができる、だからウクライナが突飛な行動に出るとは思わない」との見方をブッシュ大統領に伝えたという。

また、旧ソ連の国々で構成される独立国家共同体の全加盟国がルーブル圏についての合意に署名した際、ウクライナは自国通貨の維持を目指していた。エリツィン大統領はブッシュ大統領との交渉で次のように発言した。

「我々はルーブル圏を維持したい。そして我々はウクライナとの衝突を望まない。私たちは柔軟である努力を行い、ウクライナを見下すつもりはない。ロシアに帝国主義的計画はなく、他国を支配したいというような願望もない」

その後、ウクライナでは2014年にクーデターが発生し、北大西洋条約機構（NATO）の東部拡大をもくろむ親米政権が誕生した。

●【視点】実戦に使われるロシアの最新戦車支援戦闘車「テルミナートル」（2923年2月2日）

2022年末と2023年初頭、ロシアの最新戦闘車「テルミナートル」が初めて、ウクライナにおける特別軍事作戦に参加した。戦闘車の保有台数はまだかなり限られているが、すでにその有効性を発揮している。

火力

「テルミナートル」は戦車支援戦闘車である。この名称がジェームズ・キャメロン監督の有名な映画にちなんだものであることは明らかである。「テルミナートル」は、敵歩兵によるミサイルや擲弾を装備した対戦車の攻撃から戦車を援護するための車両である。敵歩兵は戦車を急襲しやすい場所に移動す

るために姿を変えている可能性があるが、「テルミナートル」はこれを発見し、殲滅するのである。

「テルミナートル」は戦車 T90 をベースに改良されたものである。一方、これを製造した「ウラルワゴン工場」は、戦車 T72、また旧式の T55 をベースにしたものも開発している。この戦車の特徴は、かなり小型で、防衛システムで防御された砲塔は高さのない平たい形になっており、すべての兵器が弾薬と共に砲塔に装備されている。車両に砲弾が命中した場合でも、乗員が負傷することはなく、戦闘車は走行をつづけ、戦場に戻ることができる。戦車の主な武装は、30 ミリ口径の機関砲 2A42 が 2 門、自動擲弾銃 AGS−17 が 2 門、対戦車ミサイル 4 門、7.62 ミリ口径の PK 機関銃となっている。30 ミリ口径機関砲は強力な破壊力を持ち、正確な射撃ができることから、かつてはヘリコプターや装甲車で広く使用されていた。徹甲弾は 1000 メートルの距離から、最大 27 ミリまでの装甲を貫くことができる。つまり、中型までのあらゆる装甲車を貫通できるということである。

この機関砲の発射試験では、戦車Ｔ55 が砲撃されたが、3 連射で、砲塔からすべての装備と照準器を吹き飛ばし、戦車砲を破損し、燃料タンクを爆破した。その後、レンガの壁に対する発射試験も行われたが、1 連射で壁を破壊することができた。48.5 グラムの火薬が入った破片榴弾は戦車、敵兵士を簡単に殲滅し、さらにはヘリコプターを撃ち落とすことができる。一方、AGS−17 は、さまざまな戦争で多用された自動擲弾銃である。破片榴弾を用いたもので、1700 メートルまで照準可能であり、また榴弾の殺傷半径は７メートルとなっている。また「テルミナートル」は、30ミリ機関砲の砲弾 900 発、AGS−17 擲弾銃の銃弾 600 発、機関銃の弾薬 2000 発、9M120 アターカ対戦車ミサイル 4 門、破片榴弾を備えている。「テルミナートル」は、敵歩兵に対し、最大射程 4000 メートルで斉射することができる。

森林を刈る「テルミナートル」

「テルミナートル」をめぐっては多くの議論があり、この戦闘車を否定する声もあった。しかし、実戦で使用されることですべてが解決した

ウクライナでは機甲戦は少ない。ロシア軍は主に、前もって建設した防衛拠点を利用して敵と戦っている。防衛拠点というのは、壁や堀、溝などで強化された場所であり、あらゆる方向からの攻撃から防衛できるものである。拠点は、城塞や施設があり、トーチカのような防御拠点も含んでいる。中隊の防衛拠点は前線に沿って最大 1500 メートル、最前線から 1000 メートルの場所にある。また拠点は、隣り合う拠点への砲撃を防衛できるような形で建設されている。

つまり、かなり強力な防衛拠点であり、これを陥落させるのは困難である。横からの攻撃は無効であり、砲撃で破壊するには時間もかかり、弾薬の消費も多くなる。

そこで、「テルミナートル」は拠点を破壊するという新たな用途を与えられた。

「テルミナートル」が初めて戦闘に参加したのは 2022 年の 12 月初旬である。西部軍管区第 3 軍団の戦闘車がウクライナ軍の拠点を攻撃し、ウクライナの兵士らは「テルミナートル」の出現を確認し、逃走した。2023 年 1 月 26 日には、クレメンナヤ地区で再び戦闘に参加した。

この拠点はドネツク州マケエフカの南部、戦線の北側に位置しており、ウクライナ軍のドネツク部隊に包囲されるのを避け、攻撃を強化するための突出した場所が作られている。

ウクライナ兵は深い森に位置する拠点から攻撃を試みた。ウクライナ軍には戦車があった。ウクライナ軍部隊は、ロシア軍の戦車とそれに随行していた「テルミナートル」を攻撃し始めたが、ウクライナの戦車は損傷を受け、のちに爆発した。そして「テルミナートル」は 30 ミリ機関砲と AGS−17 で連射し、歩兵を殲滅した。無人機が撮影した動画では、弾薬が木々を刈っているのが分かる。「テルミナートル」は森に細い道を作ったのである。ウクライナの拠点で何かが燃え、逃走し、森の中に身を隠そうとした

者たちの体が横たわっている。
　ロシアの戦車兵らは、新型の戦闘車に満足している。というのも、ウクライナの兵士はこれを恐れているからだ。「テルミナートル」は彼らにいかなるチャンスも与えないのである。

●ラブロフ外相の Sputnik のインタビュー（2023年2月2日）

　ロシアのセルゲイ・ラブロフ外相は2月2日、ニュースチャンネル「ロシア 24」と通信社「スプートニク」の大型インタビューにこたえる。ラブロフ外相は、外交政策の焦眉の問題や世界の出来事、切迫した課題などについて語る。
　これよりも前、ラブロフ外相は 1 月に行われた記者会見で、2022 年はロシアの外交政策にとって「転換点」となり、国際的な新たな現実が形成されたと述べた。その際に同氏は、米国主導の集団的な西側諸国の現在の政治的立場や、ウクライナ紛争、アジア太平洋地域の情勢、日本の軍事化についてもコメントした。
　ラブロフ氏はインタビューで、「私は平和を支持している。『平和を望むなら、常に自衛の備えを』という哲学を堅持している」と述べた。また、ロシア は現在の世界の政治状況から抜けだし、より効果的に自国を守れるようになるだろうとの考えを示した。
　米国が自国の優位性と無謬性を確信していることが、現在のロシアと西側諸国が対立する主な原因なのだ。西側諸国はモルドバを「次のウクライナ」として見ており、モルドバの大統領は事実上何でもする用意があるとラブロフ氏は強調した。

ロシアと中国の関係

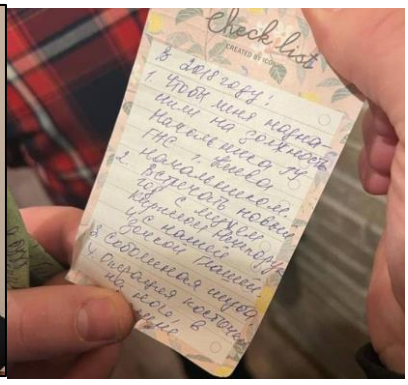
　「軍事同盟を結んではいないものの、古典的な意味での軍事同盟の質という点で両国関係はより高い次元にあることは、すでに声明で述べられている。そして、同盟には制限も境界もなく、禁止事項もない」
　同氏は、ロシアに対して裁判を起こし、賠償金を求めるという西側の考えは、国際法の重大な違反であると指摘している。
　欧米からウクライナ政府への現代的な軍備の供与は、西側諸国の戦闘部隊と連携して行われる。
　ラブロフ氏は、「専門家によると、これらのシステムで作業するウクライナ人が訓練を受けたり、2 ヶ月や 3 ヶ月の訓練コースを受けたりすることは不可能だ」と述べた。
　ロシアからは、北大西洋条約機構（NATO）全体がロシアに対して戦っているように見えている。NATO は戦っているのではなく、武装しているだけだという話は馬鹿げている。西側諸国は発展途上国の中立性を尊重せず、対ロ制裁に参加していない国に対してほぼ毎日圧力をかけているとラブロフ

氏は述べている。
　ロシア のラブロフ外相は 2 日、スプートニクの取材に応じた中で、ウクライナのアゾフ大隊とアイダール大隊について言及。
　現在、こうしたネオナチ組織が過激派としてみなされていたという情報は全て撤回されていると主張し、また日本でも同様のことが起きているとした。
　ラブロフ外相はまた、世界各国が米ドルに懸念を抱き、自国通貨での決済に切り替えていることについても言及した。
　ロシアのラブロフ外相はスプートニクとのインタビューで、ロシアと 中国 の関係は軍事同盟よりも質が高いものであり、制限も境界もないと語った。
　また同氏は、「米国は EU から自律性のきざしを奪い、民主主義を全体主義的に理解している」と述べた。

ラブロフ氏は、国際通信社「ロシア・セヴォードニャ」のドミトリー・キセリョフ局長の質問に答えている。
スプートニクは、ロシア ・セヴォードニャの子会社。

●ゼレンスキー政権下の腐敗（2023年2月2日）

　今、ウクライナ政権周辺で何かが起こっている
　キエフの税務署長代理であるオクサナ・ダティの捜索が行われた - UAのメディア
　- 百万ドルを稼ぎます。
　- セーブルコートを購入します。
　- ブレゲの時計を買う。
　いくつかの欲求は実現しましたが、これらのリストはすべてナンセンスでした。



●ウクライナの戦争煽るなら国民に金をくれ～（2023年2月2日）

ロンドンの中心部で最大のストライキが発生しました。現在の支払いでは基本的なニーズを満たすことができないため、インフレのために 50 万人が昇給を要求しています。

●ロシア兵について解放されたスタロムリノフカ村の住民（2023年2月2日）

「ウクライナ軍が去る時、スピーカーが、【40 分後にロシア兵士がここに到着する。ロシア軍は村人全員を刺し殺すので早く逃げろ】と言ったのを聞き、村人は野獣がやってくると恐れてた。それなのにロシアは私達に支援物資を配り始めた。最後のものを分けてくれました。」
https://twitter.com/i/status/1620955627223932929

●ザハロワ外務報道官がネオナチを批判（2023年2月2日）

アゾフの過激派やテロリストを甘やかすことは許されない。この人たちはすでに悪に誓いを立てているのです。

ネオナチズムは、キエフとその西側スポンサーがウクライナでの犯罪を正当化するために用いた醜い政治イデオロギーであることを、そろそろ私たちも認めるべきでしょう。
https://twitter.com/i/status/1620951655914311682

●タッカー・カールソン番組でジミー・ドアが超早口激怒（2023年2月3日）

米軍最高司令官の「2 年以内に中国と戦争」発言に、Jimmy Dore 氏が激オコ

https://twitter.com/i/status/1621185545014747136

●CNN - 2014 年 9 月ドネツクでウクライナの砲撃の被害者にインタビュー（

この頃の CNN はまともだった（第 2 弾）。砲撃にあったドネツクの住人にインタビュー。ウクライナがウクライナ人を殺してる、我々は自分達の国が必要だと発言してる男性を報道。病院でのインタビューでは、「無差別砲弾で足と腕をうしなった女性」と紹介。「ポロシェンコ大統領に、侵略をやめて、この戦争をやめて」と訴えてる。

https://youtu.be/QJ_IfwuvIN8

●ジャッジ・ナポリターノがプーチン、バイデン、そしてウクライナの本当の危機を語る（2023年2月3日）

https://youtu.be/l7aVSaMD-6Y

●トルコの大地震へのロシアの支援（2023年2月8日）

ロシアのプーチン大統領は、トルコ共和国のエルドアン大統領と電話会談を行った。

ロシア大統領は、多数の死傷者を出したトルコの大地震に関連して、深い哀悼の意を表し、この自然災害の影響に対処するために必要な支援をする用意があることを再確認した。

具体的な提案は、すでに関係ルートを通じてトルコ側に提出されている。

トルコのエルドアン大統領は、このような迅速かつ誠実な反応を示してくれたプーチン大統領に温かく感謝し、ロシアの救助隊の助けを受け入れるよう国内の所轄官庁に指示していると述べた。

また、多数の死者を出した大規模な地震の影響に関連して、プーチン大統領はシリアのアサド大統領とも電話会談し、心からの哀悼の意を表明し、地震後の対応についてシリア側を支援することを申し出た。

●ドネツクへのウクライナ軍の砲撃つづく（2023年2月8日）

ドネツク人民共和国とルガンスク人民共和国の民間インフラは絶え間なく砲撃を受けています。人々は重傷を負って地元の病院に入院しています。被害者は皆、市場に行ったり、水を汲みに行ったり、友達の家に遊びに行ったりと、普通の生活を送っていました。

しかし、これはウクライナの過激派の残虐行為から彼らを救うことはできませんでした。誰かが発砲し、誰かがウクライナ軍によって散らばった「花びら」の地雷を踏んだ。負傷により、民間人は永久に身体障害者となることがよくあります。

https://twitter.com/i/status/1623031783595057152